11月26日　民主党道本部社会資本整備委員会との懇談会

場所：連合下川2階会議室(下川町錦町)

出席者(敬称略)　民主党：滝口信喜会長(道議)・鹿糠浩之(北海道総支部連合会)
沖田龍見(道議)・田村龍治(道議)・池本柳次(道議)
北口雄幸(道議)

北海道：田中　実(道建設部土木局長)
村口　明(旭川土木現業所所長)
阿部島啓人(旭川土木現業所治水課長)
天井弘志（道建設部土木局河川開発グループ主査

市民団体：小野有五・佐々木克之・千葉永二・渋谷静男・出羽寛
宮田修・竹内和郎・早田史朗

下川町議：高原大(ひろし)・橋詰昭一

連　　合：山川美紀(会長)・副会長

元下川町議；南　邦彦　　計23名

主な内容

1挨拶(滝口会長)

ダムについては洪水防止や利水・さらに魚道などについて建設促進の考え方がある一方、もう一度立ち止まって考えることが必要ではないか。是非そういう視点を持って意見や話し合いをさせてもらえたらと思っている。そして、明日は首長や現地のダムの所長さんと話し合いをしたい。(この後、宮田さんから市民団体からの出席者の紹介がある)

2説明

1)宮田

流域委員会などで直接意見を言う場所が無かったので、こうした会が設けられたことに喜んでいる。今回は最初で大詰めの山場に来た行事だと思っている。そして、これからのポイントとして開発局が反省できないまま、新たな事業に進むのは許されないと思っている。その後、作成した文書「サンルダム建設をめぐる住民と開発局」を元にサンルダム建設の経過や建設目的である「治水・水道水の確保・発電・流水の正常な機能維持」についてすべてが不十分であることについて以下に説明をする。

1；サンルダムの経過

サンルダムは名寄川上流ダムとして昭和41年に計画され、サンル地区の調査を昭和43年に行ったが、地盤が悪く名寄川上流へ調査地点が変更になった。その後、名寄川の堤防整備・河川改修が進み、ダム建設は沈んでいた。しかし、昭和50年代に、下川町はJR名寄本線の廃止・町内に二つの営林署の統廃合・三菱銅山の休山で、過疎の危機に直面した。そこで、町の理事者と議会は域振興対策として、過去に沈んだ大型公共事業のダム建設を浮上させるため国に陳情を繰り返した。当時北海道開発局は大きな公共事業継続を図るため、予算獲得を繰り返す体質があり、そこに、地元地域振興のための陳情が一致したと思われる。サンルダムは調査。そして、事業実施と進み、今年度本体着工へと進む予定だったが、民主党政権誕生で今年度は本体工事が中止となる。

２：治水について

サンルダムはこれまで治水の面で目的が 3 階変わっている。最初は「天塩川下流の音威子府村の洪水対策のため」。しかし、サンルダム建設を考える集いの調査によれば、音威子府村の水害の直接の原因は、天塩川ではなく、支流の氾濫や低い場所に水が溜まる内水氾濫などであり、サンルダムを建設しても解決できないことがわかった。そこで、開発局・サンルダム関係者などを現地に連れて行き、「音威子府村の水害はサンルダムでは解決できなく、その解決は別の治水対策でなければならない。」と説明。開発局はすんなり認めたのである。しかし、次に開発局が言い出した目的は、「サンルダムにより、下流全体の水位低減効果がある。」と言い出した。そこで、サンルダム建設を考える集いでは開発局にその効果を天塩川流域で過去 100 年に一度と言われる昭和 56 年 8 月に観測された水位で試算し、ダム予定地下流の各水位観測所でのダム効果を出してもらった。その結果、サンルダム予定地から 10 数 Km 下流の名寄市にある流真勲別観測所で数 10Cm の水位低減効果であり、それは河川敷までも水位の上昇しない河道でのこと。天塩川下流部誉平観測所では数 Cm から 10Cm 以内の効果である。サンルダム効果はその程度のものだった。開発局自らの試算で、再度建設目的が薄れた。だが、その後、言い出したのは、「流域最大の都市、人口と資産が密集する名寄市を守るため。」である。しかし、記録にある過去最大の流量について、名寄川では 100 年に一度の大水なのは昭和 48 年に経験していて、昭和 50 年、昭和 56 年も「堤防の越水や破堤はなかった」と、参議院からの質問趣意書で開発局が答えている。さらに、下川から名寄にかけての堤防は完成断面である。そのため、経験上からもすでに大きな被害が出ない状況になっている

３：水道水の確保

「水道水の確保」は、下川町と名寄市が、より大型の多目的ダムを求めたことに対する開発局からの要求だったと推測されるが、現実に下川町(そして名寄市も)人口減少中であり、水道水の新たな確保は必要ない。

下川町のサンル川からの水利権(取水権)は 1950t/日　(22.6L/秒)

一日取水量で多かった日 1580t/日　(18.3L/秒)

余っている量　370t/日　(　4.3L/秒)

新たなダムによる取水　130t/日　(　1.5L/秒)

名寄市の水道事業とダムによる 17.5L/秒の取水の必要性は名寄サンルダム建設を考える会の竹内代表に頂く(しかし、この後、必要ないことを竹内代表は話している。

４：発電

サンルダムによる発電は、当初最大 1400KW であったが、ダム堤体の高さが 55 メートルから 46 メートルと 9 メートル低くなったことによるダム利水容量が減少したため、最大 1000KW となった。これは、風力発電の風車 1 基分にも満たない。さらに、自然調節ダムであることと、5 月から 9 月まではサクラマスの遡上と降下の時期のため、魚道への通水が必要となる。そうなると、ダムの水位の低下があるため十分な発電は無理であると予測できる。

5：流水の正常な機能の維持

開発局は常に一定量の水を下流に流し、ダム下流の河川環境の保全をすると言っているが、常に一定量を流せば、洪水時ダムによる貯水容量が増えたとき、どのように対処するのか。また、発電能力も低下する。

何よりも、川は春の増水と台風シーズンの増水があり、夏季の減水があってその環境が維持されているもの。人の都合でコントロールするのは異常なことである。

このように、サンルダム建設の目的は 4 つの目的のどれをとっても不十分か無い。一方で、多額の税金の無駄使いと環境破壊はダムがあり続ける限り続くのである。

工事期間中、すでに失われた多くの北海道の財産もある。環境影響評価ではヤマハナソウ・オクエゾサイシン・フクジュソウなどの植物がすでに一部失われ、低地風穴地帯に存在するイソツツジは集落存続の危機である。天然記念物クマゲラはすでに営巣木やねぐら木が失われ、ニホンザリガニやエゾサンショウオ・ヒメギフチョウの生息地もつぶされた。つぶす理由は「他にも生息地があるから、影響は少ない。」とされたためである。

また、サンル川を代表する魚類であるサクラマスが大きな危機を迎えている。開発局は、「天塩川流域のサクラマスの、生息可能な河川の砂防ダムなど横断工作物を改善し、資源を維持するからサンルダムによるサクラマス資源の減少については大目に見てほしい。」と考えているようだ。これも「サンル川では減少するが、他の生息地は確保する。」で似たようなものだ。サンル川のサクラマスやイワナが減少すると、幼生がサクラマスにつくカワシンジュガイやイワナにつくコガタカワシンジュガイが世代交代できなくなり、絶滅へと向かう。

北海道の自然環境は、二度と造れない大きな地域資源として、今後地域振興の主役になるだろう。人工構造物や箱物でなく、本物に触れ感動する時代である。これからは、国(官僚)任せでなく、自治体行政だけでなく、流域全体の住民による「森や天塩川、海」を共有財産とした発展を望みたい。

2)竹内

名寄市は水道水が足りないといっているが、実際は不足していない。平成 7 年、(風連町との合併以前に名寄市単独で)計画していた給水人口は 3 万 450 人。それに比べて（現在は風連町との合併に伴い、旧名寄市域で）2 万 6 千人切らないかである。給水人口が増えることについて名寄市に対して根拠を質問したが、名寄市は答えていない。そして、サンルダムによって得られる水利権は当初は毎秒 43 リットル。現在は毎秒 17 リットルと以前の半分以下だが、それでも名寄市は水が足りないといっている。結局はダムを見越した浄水場の設備投資額(50 億円)回収のため、風連に水道管を増設して給水したいためである。そして、投入された資金は市の水道料金に反映される。また、赤字は 2～3 千万出ている。水道事業計画は根本的に見直さないと、赤字は膨らむ。

3)佐々木

推進派だけでなく、自然保護派にも聞いて欲しいと知事宛に要望書を出したが、結局はわれわれの意見を聞こうとはしなかった。その後、最初は建設部長が出てきたが、2 回目は知事室長が出てきて、「今度はちゃんと聞いて返事します」といってきたので、知事にはこういう会にも出てきて欲しいと思う。そして、魚道についてだが、二風谷ダムの魚道は失敗と認めている。だから、今度はピリカダムを元に新しい方式をとるという。一方でダムを作ってから魚道試験をやるということについて、私は今までうまくいかなかったからうまくいくとは思わないけど、うまくいかなかったときにでもダムは使わしてもらうことについては税金の無駄使いだと思うので、私たちにも聞いてやってもらいたい。そして、みんなの声が反映されないことについては、是非変えていただきたい。

4)小野

最初は絵本「世界にたった一つのサンル川」を元に説明する。尚、堤防を無い場所について開発局は、「ダムを造れば何とかなるから我慢してくれ」といって直さないのが現状だ。そして、堤防が立派になれば内水氾濫が起きる。その対策はポンプでくみ上げたり、川底を掘り下げるなど小さな工事で十分済む。また、ダムによって二酸化炭素は毎年 500 トン排出が増える(注：ダム建設で失われる森林が吸収できた CO_2 は 2100 トンに対し、水力発電で削減できる CO_2 は 1600 トン)。遊水地については天塩川流域では三日月湖となっている天塩川の旧河道を生かしたほうが洪水対策だけでなく、水質浄化に一役買う。さらに地元の土建屋さんにとっても雇用などの面で役に立つ。天塩川の治水は一部の地域に押し付けるのではなく、流域全体で治水対策に関わってほしい。

5)出羽

流域委員会では積み残しはいっぱいあるが、一番大きかったのは治水対策で、論点がはっきりせず、終わってしまった。もう一つは、サクラマスについて、日本海側も資源が相当減っているが、それを維持しているのは、天塩川であり、サンル川である。それに対する影響は推進派にもあると思うがそれほどではないだろうということで魚道を造ることになったが、結局は見切り発車であった。流域委員会でかみ合った議論が出来なかった理由の一つは情報が共有されなかったためである。もう一つは、地元の生活の視点も必要だろう。1997 年の河川法改正で環境と住民参加が明記された。ところが、流域委員会では、委員は専門的な立場から意見を言えばいい。そして、判断は開発局(国)が行うことになっている。規定ではよくても、それでは違うと思う。ですから、それを土台から見直し、そういう機関を来年度作って欲しい。

質疑応答・懇談

沖田・・・二風谷ダムでは土砂がわずか 5 年で土砂が半分以上溜まったが、サンルダムはそういうことは起きないのか。

小野・・・土砂生産については二風谷ほど悪くないが、ダムサイトの地盤は悪い。

沖田・・・当初は二風谷でも苫東への供給が計画されたが、苫東開発は無くなり、道も水利権の問題で莫大な損害をこうむった。だから、過大な計画を出して、そのために必要だといって開発するのだと思った。

竹内・・・当初の計画は破綻している。浄水場には 50 億円投資しているが、無駄にしないために合併した風連に供給する。しかし、風連も人口が減るから必要でなくなるとわかっているが、無駄になるからまた引っ張る。無駄がどんどん増えて、赤字が出てくる

宮田・・・地質について、ダムのできる地質は悪い。そのため、ボーリングもものすごくやったが、結局はダム軸をねじって決めざるを得なかった。ダムの下流側は、いろんな層が流入して岩盤を形成しているが、その中で、水が抜ける可能性のあるところが非常に多い。また、ダム予定地の左岸側の岩盤も割れている。したがって岩盤の手当てやダム下流側にある水の抜けやすいところの手当はどうするのかについて、開発局はしないという。それで調べたのは富良野の東郷ダム。これは水が抜けて運用できない。そして、厚沢部の鵜ダムはどうにか水漏れを止めて運用している。尚、名寄の水道水について、王子板紙の水利権のうち、実際に余っている量は相当ある。それを名寄に譲れないのかと会社に話したが、「これは私たちの権利です」といわれた。

沖田氏の左側の方・・・開発の(強引な)手法はわかっているがもっとサンルダムがの北海道全体の運動にしていかないといけないと思う。

小野・・・それは 10 年間苦労してきた。放水路は札幌に近いこともあってみんながわかっていたが、サンルは(札幌から)遠いのでなかなか広がらなかった。

出羽・・・もう一つ天塩川計画で抜けているのは超過洪水という予想しない洪水。それで大事なのは堤防強化や遊水地。それでも、どうしても必要ならダムは必要なのかもしれない。

沖田氏の左側の方・・・八ッ場ダムは用地買収などで問題になったがサンルダムはどうだったのか。

宮田・・・高齢化していることもあり、ダムが決まって土地が買い上げになることを待ち望んでいた。

沖田氏の左側の方・・・ダム建設が中止になればどんな影響があるのか。

小野・・・推進派にしてみれば、一時的にしても工事関係者が旅館に泊まるなどの経済効果はあるので、売り上げなどに影響はあると思う

渋谷・・・ダム中止になって下川町民がこれは困ると皆さん話したことはあるんですね。

北口・・・ダム計画が変更されたことと、知事の同意が人用だということで 2 年前にどう議会で質問させていただいた。当時は当初 530 億円だったのが高さ 9 メートル低くなるということで 60 億減る一方で工事期間延長や環境対策や調査などで 58 億円増加するため、結局 528 億円ですよと説明受けた。下川の皆さんに訴えるのは中止となった場合、下川の地域振興につなげていくのかということを訴えないと、下川の皆さんの心に反対だけでは響かないのではと感じる。遊水地や堤防のこともあると思うが、下川は林業・環境をメインにやっているので、特に国有林は森林整備がやってきてない実態があるので、そこに予算を持って言ってきちんと整備していくそのことが林業従事者や土建業の皆様の職種転換につながっていくのではと思いますが、それについてはどうですか。

佐々木・・・私はそれが一番だと前から思っています。

出羽・・・　下川で１０年くらい前に関係者に聞いたのですが、30～40 年間の計画を立てているが、うまく進んでいない。外から見ると、ダム問題になると、下川では自由に言えなくなっている。賛否はともかく、生活から見て自由に意見を出し合う力を出し合って蓄積していくベースを作っていかないといけない。

佐々木・・・地域振興で言えば、北海道は農業・林業メインですが、民主党が林業をどう立て直すか期待しているし、特に下川は林業なので、下川から発信すれば影響力はあると思う。私はそれをお願いしたい。

小野・・・27 日に札幌で「サンル川と森を生かした持続的な地域振興のシナリオ」を発表するが、その中では自然を生かした振興策の実例も 2 例発表する。私たちは単にダムに反対しているのではないのですく、下川町を本当に好きなのです。だから何とかダムを造らないでもっといい形にして発展させたいとの思いでやっていますので、是非一緒にやりたいと思います。よろしくお願いします。

道議(誰かは不明)・・・魚道についてはどこも成功していません。十勝川でも造ったが成功していない。しかし、観光バスが来る。なぜなら魚道の中が見えるようになっているため。魚道問題で開発局と議論するときは現場で行うのが一番いい。ただ、失敗例ばっかりです(注：判らなかったのは、私が会場に入ったときは既に出席者の紹介があり、顔と声と名前が一致できなかったためです。申し訳ありません)

北口・・・2時間の議論の中で貴重な意見を頂き、ありがとうございました。知事の方は一夫的に推進派の皆様だけの話とのことでしたが、しっかり皆様方の意見をお伺いさせていただきました。今日の団長である滝口会長のご挨拶させていただきながら、本日終了させていただきたいと思います。

滝口会長・・・ダムについては北口さんからいろいろ聞いていて、議会で質問されていましたのでなんと無く判ってはいましたが、現地に来て皆様方が非常に熱心に取り組まれている方々の話を聞いてさまざまな思いをしました。私達民小党は、地域のことは地域で決めていく(地域主権)が政治の基本姿勢です。ダムの問題にしても、もう少し幅広い議論すると今の状況ではなかったのかな・・・という気がしています。しかし、行政というのは続いています。今、この場に前原さんが今回のような方針を出した。千歳川方水路のときもそうでしたが、かつて堀道政の時もあまり評判はよくなかったですが、「時のアセス」だけは世界的にもかなり評価の高いものでした。「時のアセス」は当別ダム上流でのゴルフ場開発の時からスタートしました。私は堀さんに聞いたら道の事業ではいろいろやれるが、堀さんの思いは「何とか千歳川話法水路に当てたい」というのが基本だったのです。それで結局いろいろな人の思いで方水路によらない対策ということで今進んできています。確かに費用がどの程度かかってどうしたかという話はさまざまな公共事業のときに出るのですけれども、事業そのものはその金額だけではないわけです。当然、維持管理をするランニングコストを考えると、「そこまでやってどうなのか」ということを考えるのは非常に大事な部分なのではないか。われわれは今の時代を生かしていただいていますが、われわれの次の世代に本当に責任を持っていえるのかということを考えると、さまざまな思いを致します。しかし、現実的には一度立ち止まってダムに寄らない治水の委員会を作って22年度末には中間報告を出して23年には方針を決めるということですから、私どもは今日、皆様から話を伺い、明日(27日)はいわゆる期成会(推進派)の話を伺います。したがって私どものほうで賛成反対を決めるということにはならないということはご承知いただきたい。しかし、皆様方の意見。そして明日聞く意見。これを委員会としてある程度まとめ、民主党道連につないで中央にどういう手立てをするか。また、佐々木代議士に入っていただき、これらについてどうするか判断する。確かに今日はサンルダムの話で今日聞かせていただいていますが、北海道には平取ダムもありますし、道の補助ダムもたくさんあります。ですから、このダムはよくてこっちはだめという結論にはなかなか難しい仕組みになっています。しかし繰り返しになりますが、皆様方の意見。そして、明日聞く意見について同時並列にしてしっかり届ける役割は果たしていきたいと思います。

政治に対する信頼もさることながら、やっぱり行政機関。とりわけ、今回の場合は開発局に対するさまざまな今日までの不信が情報をお互いしっかり共有するということに生かされていなかったのが非常に不幸なことだったのではないかと思います。そういう意味では政権が変わればすぐにぱっとできるかどうかは私たちにはなんとも言えません。しかし、我々政治側にいる人間はそういうことを勤めて役所側にしっかり言っていくことが必要ではないのかと思います。品実はこのような場を作っていただき、地域でしっかりと取り組んでいくことに我々は地から強く思いながら何とかいい方法を探っていきたいと思います。結論を出すにいたらないことを申し訳なく思いますけども、皆さんのさまざまなことをしっかり伝える役はして参りたいと思いますのでどうぞよろしくお願いします。

一同・・・お礼を言う。

宮田・・・一言お礼。本当にこういう機会を与えてくれまして、本当にありがとうございます。出来ることなら今日のように大々的でなくても何回か会合を持ちたい。我々も黙っているわけではないし、さらにいい案を模索し続けながら、やはり開発局と話し合いを持っていただく方向で今後もやっていくと思います。そしてこういう会合を出来たらまた開いていく機会があればと思っています。それと、一つだけ最後に。下川町の森作りのことですけれども、森による治水。それから、森の栄養が海まで行くこと自体は小学生でもわかっています。ですから、森作りの方向性を間違ってはいけない。今の下川町の法制林化による循環型の森林経営は間違っています。というのは、ある面積を60等分して切っては植え、切っては植えしていくと60年前にやったところがまた切れる。これは、山の農地化であり、一種類の作物の連作になってしまいます。青木しか育てられません。これは、循環しない循環型森林経営です。これは、森林法で建前上は80パーセントは環境のための山であり、20パーセントは木材生産という考えからも基本的に外れています。ですから、もっときちんと山作りのこと。これからの森林のことについては皆さん、将来を見て考える力をつけてもらわなければ、表面ずら面の評価だけで物事が走ると、非常に大きな方向違いのところに向かう恐れがありますので、今後も悉皆見守っていただきたいと思います。これは町議の方にもよろしくお願いします。以上です。

今回の懇談会の中身は以上でしたが、この中で、懇談会の終了後、市民側の出席者が喫茶店に集まり、話をした際、「ダムに寄らない治水の委員会」について、23年度に方針を出すことについては、八ッ場ダムでの反発が激しいことから慎重に議論していくという見方があった一方で、衆議院議員の解散は任期満了である4年を待たないで行うことが多いことからかけたのではないかという見方もありました。

そして、佐々木代議士とは29日に話し合いを持つことになっていますが、小野先生によれば、先日東京でお会いした際、ダム問題については少なくても私たちの間ではサンルダムにおいて、民主党の中央と道本部のねじれの原因と思われていた佐々木議員が、「ダムに頼らない治水についても検討してこなかったことはいけないことであり、それを行わなければならない」と言っていたそうです。ですから、私の想像ではありますが、29日は新党日本の田中代表が長野県知事時代に宣言した「脱ダム宣言」の考え方に近い考えを持っている可能性もありますので、実りある話し合いが期待出来るかもしれません。

尚、この文書の中身について、急いで作成したため、話の中身や数字などで間違いがあるかもしれませんが、その際は申し訳ありません。　　（文責　早田）